



箕輪進修高校 進路指導室

2012. 6. 25

3, 4年生用 No.23

やるべき時にやれるか否かも実力の内



「やる気になればもっと出来るはず」と言う人が時々いますが、やるべきとききちんと出来なければそれは力が無いと同じこと。本気になれば出来るかもしれない、しかしいつまで経っても本気になれなければ、いったいつ本気になるのでしょうか。出来無かったいいわけは色々言えます。時には同情したいような事情もないわけではありません。しかしいつまでも言い訳ばかり並べて、**自分の本気を出せないのでは、結局力がないと見なされても仕方ありません。**

皆さんの中にもいっこうに本気になれない人もありはしませんか。「そのうちに」と言っている間に時はたちまち過ぎていきます。本当にやるべき時に本気になれない人は結局、何も成し得ないかもしれません。

若いときはやるべき時に「自分の可能性を信じて、がむしゃらに頑張ってみる」そうした経験は一度はしておくべきでしょう。そうした体験をした者は人生の上でも生きる自信となるはずです。



その場に最善を尽くす！

人生の中で誰しも一度ならず「自分のやりたいことはもっと別なところにあるのでは」と感じる場合があります。そう感じたとき、自分の置かれた現実には不満ばかりを感じ、現実を軽んじ隣の芝ばかりを見、現実から気持ちを逃避させてしまえば、結局虻蜂取らずとなりがちです。

「こんな仕事は嫌だ、もっと自分にふさわしい仕事があるはず」と感じ、会社を辞め別の仕事を探そうとしても、今の世の中なかなか別の仕事に簡単にはありつけません。

今の若い人にとって、自分の第一希望の会社にすんなり入れる人は限られています。そうすると、とりあえずどこでもよいから入れる会社に入りたい、となるのです。

いつの世も、**自分が本当にやりたい仕事に就ける人はごくわずか**です。多くの人は現実の中で様々な妥協のもとに生きているのです。しかし、それは必ずしも後ろ向きな生き方とは言い切れません。個人にとって本当にふさわしい仕事というのは当初自分が考えていたものがそれであったのかは分かりません。また、一つの分野だけに限定されるものではないはず。人間には**もっと柔軟性があるはず**です。他の分野のことをよく知らなっただけということが多いでしょう。

当初それほど気が進まなくても、その中に入り、一生懸命取り組んでいると次第にその仕事の面白さが見えてきて、やりがいを感じることは少なくありません。自分がやりたいものがはっきりしない人はなおさら、当面与えられている仕事に精一杯打ち込んでいると、必ず自分の努力に応えてくれる何かが見つかるでしょう。若いときは目移りしがちです。長い人生の中で迷いも沢山ありますし、苦しいことも少なくありません。それを耐えひたすら今いる場で自分の出来ることを精一杯やり続けていけば、やりがいや喜びも少なからず得られるものでしょう。

若いときはなかなかこうした考えが出来ないかもしれません。年を重ね少し引き下がって物事が見られるようになれば、人生をもっと楽しめるのかもしれませんが。今はせめてこんな見方もあるのかと皆さんの心のどこかに留めておいて欲しいものです。

